

“令和七年敬念寺「報恩講法要」のご案内”
 ～今年最後の法要!多くの皆様のご参拝お待ちしております～



門信徒有志の方々が丹精込めた菊鉢で皆様をお迎えします (昨年の様子)



発行所
 岡谷市郷田一丁目6番3号
 TEL(0266)22-2524
 金松山 敬念寺
 発行 行
 敬念寺門信徒会
 編集 集
 会報組織委員会
 朝7時はみ仏さまや
 彼(か)の人との
 出会(であ)いの時間

本年の報恩講法要について

慈光のもと、門信徒の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと思います。
 今年も、宗祖親鸞聖人の御命日をご縁とする報恩講法要の時期が近づいてまいりました。
 本年の報恩講法要も、法要後の「お齋」が計画されておりますので、門信徒の皆様が親しく触れ合えるよう願っております。
 本年最後の法要となります。皆様お誘い合わせでご参拝下さるようお願いいたします。

敬念寺住職 釋 宏真

敬念寺報恩講法要の御案内

私も浄土真宗の門信徒にとって大切な「報恩講法要」を次のように計画しております。
 門信徒の皆様が親しく触れ合っていただけのように、昨年に引き続き、法要後の「お齋」も計画しております。

大勢の皆様がご参拝下さるようお願い申し上げます。(四頁の別途ご案内記事をご覧ください。)

★日時 令和七年十一月九日(日) 十時～

門信徒会長 千原 博幸



(昨年のお齋の様子)
 (別に記念品あり)

**ご寺院
 案内事**

- 11月 9日(日) 報恩講法要 前10:00
- 1月 1日(木) 元旦会 (法要) 前 7:00
- 1月16日(金) ご正当法要 (新年初まり) 前10:00
- 3月20日(金) 春の彼岸法要 前10:00

**ご定例
 法話会**

- 11月20日(木) 講師 横内教順さん (東京都)
- 12月20日(土) 講師 増田廣樹さん (茨城県)
- 1月20日(火) 講師 未 定
- 2月20日(金) 講師 未 定

いずれも毎月20日 夜7:00からです。

—お寺から—

◎門信徒の心得〜報恩講〜

敬念寺で毎年勤まる法要はいくつかあります。孟蘭盆法要や春秋の彼岸法要は大勢の方がお参りに来られておりますが、年間の最後の法要である「報恩講法要」は少しお参りの出足が良くありません。

「敬念寺だより」にも何度も法要の意義やお寺にとって重要な法要であることをお知らせしてまいりました。

浄土真宗のご門徒にとって大切なご縁ですので今一度ご案内・おさそいさせていただきます。

◎報恩講とは

お念仏のみ教えを私たちに伝えてくださった「宗祖」親鸞聖人のご恩を偲び、そのご苦勞を通してみ教えをよりいっそう味合わせていただく法要です。浄土真宗の寺院において重要な法要であり、ほとんどの寺院でお勤まりになっています。

◎報恩講の歴史

この法要は親鸞聖人がご往生された後、三十三回忌法要をひ孫にあたる覚如上人が親鸞聖人を偲び、「報恩講式」という書物を著されました。

それ以来、聖人のご命日に営まれる法要を「報恩講」と呼ぶようになりました。現在ご本山では毎年一月九日から十六日(新暦の親鸞聖人のご命日)の一週間、「御正忌報恩講」としてお勤めになります。

私たち一般の寺院は、本山の御正忌報恩講を避け「お引上げ」「お取り越し」と呼び、本山に先立ち勤めて

います。敬念寺では、毎年十一月第二週の日曜日にお勤めをしております。

◎報恩講の意義

この法要は、お寺の存在意義である教義(み教え)に深く関わる法要として非常に大切な法要です。

親鸞聖人のご苦勞がなければお念仏のみ教えに出遇うこともなく私たちのお寺も存在しなかったかもしれません。故に、親鸞さまに感謝すると共に、そのみ教え『阿弥陀如来のご本願(お念仏)を味わいました、大切にする思い』を深めるための法要です。

◎敬念寺報恩講の現況

コロナ禍により法要延期・自粛をしてきたこともあり、お寺の法要・行事への参加は減少傾向にあります。

報恩講も例外ではありません。コロナ禍以前の活気のある法要にしていきたくと願うところです。

この紙面にもご案内がありますように「お斎(会食)の再開や他寺僧侶参勤など、以前の雰囲気を取り戻しつつあります。この法要が寺院の根幹をなす「教え」に深く関わる行事であることを考えたときにより多くの人がお参りをされ、お念仏の声が本堂に響くような集いになればと思います。

住職としてはより一層の伝道布教に心がけ、一人でも多くの方がこの法要の意義に共感をしていただくよう勤めてまいります。

皆様には報恩講法要へのご理解をいただき、お参りいただきますようお願いいたします。

本山ホームページ

—「家庭での報恩講」の二部から—

『歎異抄』には、親鸞聖人が「亡き父母の追善供養のために念仏したことは、かつて一度もありません」とおっしゃったと伝えていきます。そう聞くと、「親鸞聖人は親不孝だったの?」と思われる方がおられるかも知れませんが、そうではありません。続けて「というのは、命のあるものはすべてみな、これまで何度となく生まれ変わり、死に変わりしてきた中で、父母であり兄弟・姉妹であったのです。この世の命を終え、浄土に往生してただちに仏となり、どの人をもみな救わなければならないのです」と記されています。確かにお父さんお母さんこそが、直接私に命をくださった方も知れませんが、命の連続の中で考えるなら、すべての命はつながっているのです。私たちは、自然の恵みのもとで多くの命とつながり合い、はぐくまれています。そして、多くの方々の支えと仏さまのご縁にいかされて生きています。

このように、多くの命のつながりと、私の命が落ち着く先である浄土への道を示し、今の私を支えてくださる「畢竟依(究極の依りどころ)を示してください」のが親鸞聖人でした。ですから、私たちは、阿弥陀如来のおこころを聞かせていただくとともに、親鸞聖人のお導きへの感謝の思いから「報恩講」を大切にお勤めしてきたのです。

小僧の目

住職の仕事の一つとして施設の管理維持があります▼ご門徒の方の手を借りながらなんとかしておりますがこのたび照明器具に使われている蛍光管製造中止にあたってすべての照明器具を見直しすることとなりました▼古いものでは先々代住職の時代に設置された器具もあり、本堂・会館を中心に蛍光管だけの交換の場所もあれば、器具全体を交換しなければならぬ所もあります▼蛍光管の製造中止がなければまだまだ現役で使用できるものなのに残念でなりません▼残念であり勿体ないと思う心が先立ちますが、理由を調べてみれば今回、二十七年末までに蛍光灯を製造終了するのは、地球規模で問題になっている環境汚染やエネルギー問題への取り組みのひとつだということ▼納得していくほかありません▼今の本堂が出来てから約五十年、会館庫裡が三十年あまりたちます▼この間、改修もありましたが、大きな不具合・故障もなく電球や蛍光管の交換をするくらいでここまで過ぎたことに「ありがとう・おつかれさまでした」と感謝をいたしたいと思います。

釋 宏真

親睦旅行の報告

十月二十二日に親睦旅行を実施しました。

今回は、「篠ノ井康楽寺参拝と無言館及び北向観音・前立本尊御開帳」の旅で二十三名（ご夫婦が五組）が参加しました。

行程	敬念寺	篠ノ井康楽寺 (庭園・宝物見学)	昼食	無言館 (戦没画学生慰霊美術館)	
	7:30	8:55	10:30	12:30	13:30
	北向観音 (前立観音御開帳・国宝安楽寺八角三重塔参拝)		道の駅マルメロの駅	敬念寺	
	13:40	15:30	16:00	16:15	17:00

康楽寺は同宗派です。北向観音・常楽寺は、開創千二百年六十四年ぶりの前立本尊御開帳中。また、今年には戦後八十年になります。戦没画学生慰霊美術館を見学して思いを新たにさせていただきました。紅葉を車窓から眺め、車中和やかな雰囲気です。楽しい日帰り旅行となりました。教化委員会では、二年に一度本山・西本願寺を参拝する計画としています。来年度募集の際は、ぜひご参加されるよう、今からお願いするところです。



別所温泉・北向観音



報恩院・白鳥山・康楽寺



国宝八角三重塔
(別所温泉・安楽寺)

お寺からの報告

◎境内竹垣の整備

前回整備してから年数が立ち、竹の色が黒くなってきました。そのため、八月に新しい竹垣に整備しました。ご参拝の折にご覧ください。(写真は八月十六日撮影)



◎寺院の照明器具LED化工事

2027年末で蛍光灯の製造が終了します。このためLEDの器具に更新されています。ご家庭も多いことと思いますが、お寺でも、今年度末までを目途に工事を予定しています。

敬念寺の広い施設には、様々な器具が付いています。また、会館ホールなど天井が高い場所もあり、大変な作業となるのが予想されます。工事中、ご迷惑

になることもあるかと思いますが、ご協力をお願いいたします。



トピックス

―本山へ今年も絹糸献納―

本山の御正忌報恩講法要においては、御影堂の親鸞聖人御真影の念珠房が新しいものに代えられています。

この御流蘇絹糸は敬念寺がご下命をうけ、平成元年から献納しておりますが、今年も十月十七日に

令和8年回忌表

(あなたのお家は?)

1周忌	令和7年
3回忌	令和6年
7回忌	令和2年
13回忌	平成26年
17回忌	平成22年
23回忌	平成16年
27回忌	平成12年
33回忌	平成6年
37回忌	平成2年
50回忌	昭和52年

(上記を参考にご予定ください。)



本山に献納する千原さん(7.10.17)



献納された絹糸
(親鸞聖人御真影の念珠房に!)

千原博幸さん(門信徒会長)が担当者となり、本山に赴き献納しました。

〔経過〕門徒総代であった故山下幸治様が長らく物心両面で携わってこられました。高年齢を理由に本山献納のお役から退かれ篤いお心をお寺に託されました。令和二年からは千原博幸さんが担当使者となり、毎年本山に赴き献納しております。
(百三十一号一頁他に関連記事)

令和七年度 報恩講法要のご案内

―今年最後の法要です。おさそい合わせてお参り下さい―

◆日時 令和七年十一月九日(日) 午前十時から
日程 (開始十分前には入堂御着席ください。)

○受付 九時三十分〜九時五十分

○会場 本堂

○報恩講法要(正信念仏偈・和讃) 十時〜十時四十分

○コールガンダー仏教讃歌 十時五十分〜十一時

○法話 十一時〜十二時

講師 布教使 木賣慈教さん 長野市西敬寺住職
講題 「心配ばかりの人生に、大丈夫と響く念仏」

○お 齋(おこわ・敬念寺汁、供物) 十二時〜十三時

◆報恩講協賛作品展 菊花、山野草、絵画、写真、彫刻他

◎受付は、会館ホールで行います!

門信徒会費・護寺協力金納入の御礼

今年度の門信徒会費につきましては、皆様にそれぞれご配慮いただきありがとうございます。また、財務基盤強化のため平成二十八年度に新設され、十年目となった「護寺協力金」については、担当のお世話人様には毎年の説明とお願いに大変なご苦労をおかけいたしました。

今年度もお陰様で、大変多くの皆様方のご理解をいただき、七十四万円余(十月十六日現在)の尊いお心を賜りました。

ご協力下さった門信徒の皆様並びにお力添えいただきましたお世話人様に厚く御礼申し上げます。

この浄財は引き続き、「護寺協力金」に積み立てて今後の大規模営繕・大型法要費用等に備えてまいります。

ありがとうございます。

門信徒会会長 千原 博幸
財務委員長 西山 周治

